

Labo News

らぼニュース

発行所 社団法人愛知県臨床衛生検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 松本 祐之
 編集人 堀 隆彦

No.369 目次

- ◆平成24年度
日臨技中部圏支部幹事会報告…………… (2)
- ◆尾張東地区研修会報告…………… (2)
- ◆ピンクリボン
スマイルウォーク2012に参加して …… (3)
- ◆学術部門だより…………… (4)
- ◆愛臨技渉外部門 組織部部員・
健康啓発委員会委員・ホームページ運営委員会
委員募集のお知らせ…………… (5)
- ◆New Yearパーティを開催します! …… (5)
- ◆知多地区研修会…………… (6)
- ◆尾張北地区研修会…………… (6)
- ◆基礎講座・研究会…………… (6)
- ◆地名読み方教室…………… (7)
- ◆AICCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第15回) …………… (8)

日臨技精度保証施設認証制度の申請について

愛臨技施設認証委員会担当理事 岡田 光義

日臨技および愛臨技HPにてご案内の通り、既に今年度は施設認証制度（認証期間：平成25-26年度分）の受付期間が終了し、審査を実施しているところです。本制度は平成22年度にスタートし、同年に認証を受けた施設は今年度で2年間の認証期間（平成23-24年度）が満了します。創設以来初めて更新を迎える年度となります。全国では過去2年間で486施設が認証を取得しておりますが、愛知県の認証施設数は17施設とやや低調な状況となっております。

本活動の展開について、日臨技HPより「本認証制度は、昨年度から認証機関としてJCCLS（日本臨床検査標準協議会）が加わり、認証書には日臨技とJCCLSの名称が記載され、日臨技・JCCLSによる認証はこの制度の意義と品質が日臨技の独りよがりなものではないことを認めていただいたものです。このように、検査室の品質（力量）を推し量る物差しとして第三者機関が認めていただける環境になりつつあります。」

また、活動の目的は「信頼性（精確さ）が保証された質の高い検査データを国民に提供できる検査室が多く存在することを内外に示し、臨床検査技師の社会的地位向上に繋げていくこととあります。」としています。

この制度の更なる発展に会員のご理解とご協力をいただきながら、私たちが目指す姿を私たちの手で具現化していきたいと取り組んでいます。少しでも多くの施設の検査データが、他医療団体や行政機関などから高い信頼性を獲得するべく、施設認証の取得を目指していただくことをお願い申し上げます。なお、次年度に認証取得を新規に目指している施設や更新を予定している施設は、是非とも申請費用5万円を次年度予算に組み込んでいただくよう準備をお願いいたします。

最後に、今年度は審査日程が例年よりも1ヶ月早く設定されており、充分なご案内ができなかったことを深くお詫び申し上げます。

平成24年度 日臨技中部圏支部幹事会報告

愛知県幹事 梶山 広美

去る平成24年11月2日岐阜県多治見市におきまして、平成24年度第1回中部圏支部の幹事会が開催されました。午後1時より日臨技の報告から会議は始まり、今回は日臨技が新執行部になって初めての支部会議ということで、活発な質問や意見交換が行なわれました。日臨技の松本副会長からは、日臨技事務局体制の見直しや、「チーム医療推進検討会」「未来構想策定に関する検討委員会」「学術組織再構築に関する検討委員会」等が設置され、現在検討が始まっており、早急に答申をまとめ次年度以降の事業計画につなげていく旨報告がありました。業務認証を前提に特に力を入れていく内容として「検査説明のできる臨床検査技師の育成」について説明もありました。また、日臨技の報告のなかで、学術再構築や、今後の支部での学術活動については、日臨技への要望を含め議論されました。

会員の皆様への情報としては、平成25年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第52回）は三重県担当で開催される予定です。日程は、平成25年11月23日（土）24日（日）、場所は三重県総合文化センターです。テーマ「明日の医療の担い手となる臨床検査技師」～多様な医療へどう関わっていくか～ということで、愛知県からも多くの演題発表をお願いします。また、平成26年度は富山県担当で平成26年9月27日、28日に開催される予定となっております。

最後に、学術再構築や支部の役割として、研修会の開催方法や教育については、今後日臨技の方針が出され推進されることと思います。会員の皆様におかれましてもご意見、ご要望等ありましたら、どんどん愛臨技まで出していただくと幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

平成24年11月10日現在 正会員数2,708名

※求人情報、理事会・常務理事会議事録はホームページを御覧いただくか、事務所へお問合せください。

尾張東地区研修会報告

公立陶生病院 臨床検査部 大塚 みわ

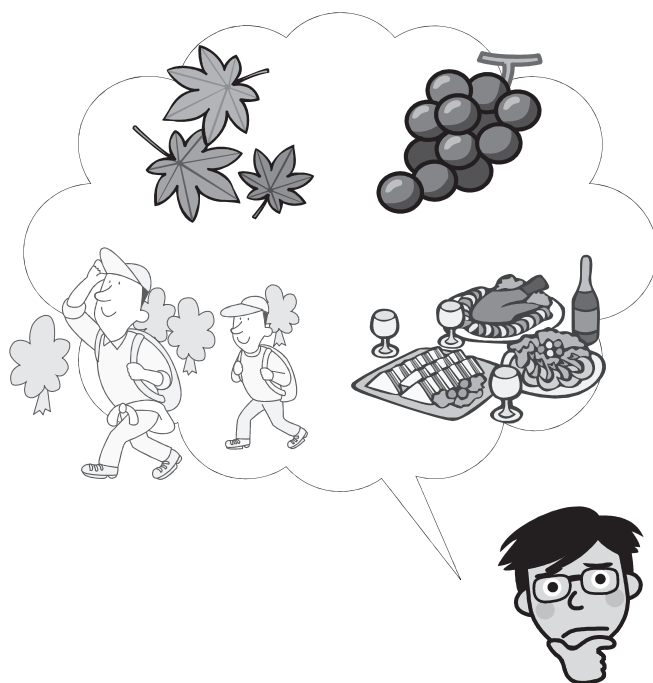
「要介護高齢者の糖尿病管理」というテーマで旭労災病院 糖尿病内分泌内科の小川 浩平先生に御公演頂きました。糖尿病とは、という病態の基礎の話から始まり、検査の話ではインスリン値と空腹時血糖値の数値からHOMA-R（インスリン抵抗性指数）とHOMA-β（β細胞機能）と言う数値を臨床の場で算出し、境界域の糖尿病評価に使われていることを知りました。

高齢糖尿病患者の診察では検査数値の評価や投薬治療だけで無く患者家族構成や生活環境などに合わせた治療が行われており、検査技師の教科書には載らない面がかなり重要な事を知りました。

小川先生の質問で「紅葉狩りとぶどう狩り、ハイキングとバイキングどちらに行きますか？」とありました。

皆さんはどちらでしょうか？「もちろん後者でしょう」、と言う方は糖尿病に注意が必要だそうです。

今後高齢糖尿病患者を増やさない為にも、まずは自分と家族から食べ過ぎに注意しなければならないと痛感することができました。



ピンクリボンスマイルウォーク 2012に参加して

名古屋掖済会病院 夏目 園子

10月13日(土)は秋晴れの大変良いお天気で、スマイルウォーク10キロコースは午前10時30分、久屋大通公園久屋広場の特設会場からスタートしました。この催しは「乳がん検診のきっかけ作り」を推進するためのキャンペーンの一つで、出発セレモニーでは歌手のアグネス・チャンさん、冬季オリンピック代表の萩原次晴さん、書道家でタレントの矢野きよ美さんのトークで盛り上がりました。コースはテレビ塔・名古屋市役所・名古屋城北堀沿い・能楽堂・五条橋・四間道・納屋橋・御園通り・白川公園・大須観音を巡って久屋広場に帰ってくる道順です。途中まで甲冑衣装のおもてなし隊も一緒でしたが、汗ばむ陽気の中でのウォークは私たちより大変だったと思います。信号や曲がり角にはボランティアさんがいて指示して下さり、大変スムーズに歩くことが出来ました。愛臨技の仲間や利口な犬と歩いているおじさんなどと、おしゃべりしながらのウォークは大変楽しく、また、五条橋や四間道など初めて通る道も面白く、こんどはゆっくり散策したい場所も発見しました。ウォークのあと名古屋医療センターの遠藤登喜子先生もトークに参加され、マンモグラフィの検査の実態をモデルと実際の機器を使って紹介されました。若い女性も罹患する乳がんの早期発見には検診が最も有効であることを、もっともっと宣伝し、乳がん死をゼロに近づけようとみんなで誓った1日でした。

ピンクリボンスマイルウォーク 名古屋大会に参加して

西尾市民病院 診療技術部臨床検査室 大嶽宏幸

10月13日秋晴れの中、名古屋市久屋大通公園でピンクリボンスマイルウォーク名古屋大会に参加しました。アグネス・チャンさんら、3人の豪華ゲストが参加されていました。ピンクリボンのゼッケンを付けた参加者が10キロ・5キロのコースを午前中歩き、午後名古屋医療センター放射線科部長の遠藤登喜子先生のトークショーが行なわれていました。

我々は検診受診の啓発活動の一環として乳癌、子宮頸癌のスライド標本を用意し、参加者に呼びかけ癌細胞を実際の目で見てもらい早期発見の重要性を説明しました。参加者は乳癌を患った方が多く、真剣に聞いて頂きました。また組織型、石灰化など細かなことまで質問される方も見え、乳癌に対する関心の深さが窺えました。我々の活動は地道ですがこのように市民の皆様にご協力いただくことで、健康増進の一役を担えたことを有意義に感じました。



学術部門だより

学術部門担当副会長 岸 孝彦

(社)愛知県臨床衛生検査技師会(愛臨技)の目的は「臨床検査技師及び衛生検査技師の学術技能の研鑽を行い、併せて、地域医療及び公衆衛生の向上を図り、もって県民の健康の保持及び増進に寄与することを目的とする。」と定款に定められています。これらの目的を達成するために、愛臨技は総務部門、学術部門および渉外部門の3部門で組織されています。前回の総務部門に続き、今回は学術部門の役割と活動について紹介させていただきます。

学術部門には学術部と精度管理事業部がおかれ、それぞれの部が担当部長の指示のもとに活動しています。現在、学術部長は中根生弥氏(厚生連豊田厚生病院)、精度管理事業部長は岡田元氏(厚生連安城更生病院)が努めています。

学術部の主な事業は①学会の企画、②全国研修会および地区研修会への協力、③各種研究会、講演会および基礎講座の開催などがあります。これらの事業を遂行するために学術部には9研究班((1)微生物検査研究班 (2)血液検査研究班 (3)生物化学分析検査研究班 (4)病理細胞検査研究班 (5)生理検査研究班 (6)一般検査研究班 (7)輸血検査研究班 (8)遺伝子・染色体検査研究班 (9)生殖医学研究班)が設置されています。この9研究班には研究班毎にそれぞれを専門分野とする愛臨技会員が班員となって参加しており、班長を中心に種々の学術企画を遂行しています。平成23年度実績は9研究班全体で、研究会が35回、講演会が9回、基礎講座が7回開催され、合計のべ参加者数は4581名を達成しています。また、平成21年度からは、従来、各研究班単位で個別に行っていた新人を対象とした基礎的な内容の研究会を、「新人サポート研修会」と称して複数の研究班による合同形式の2日間研修会としました。この研修会は新人の配属やローテーションでの配置換えの時期に合わせて、毎年6月から7月の土日に開催しています。技師会未入会の新卒者も多数参加しており、研修会参加が技師会入会のきっかけにもなっています。「新人サポート研修会」の成功もあり、平成22年度からは学術部合同企画の第2弾としてテーマを臓器別に絞った「スキルアップ研修会」を開催しています。この「スキルアップ研修会」も、毎回好評でたくさんの参加者を集めています。春の「新

人サポート研修会」と秋の「スキルアップ研修会」は愛臨技学術部企画の恒例行事として会員に定着した感があります。

学術部では今後も愛臨技会員のニーズを把握し、会員の要望に応えられる行事や事業を立案し実施していきたいと考えています。

次いで精度管理事業部について紹介いたします。精度管理事業部の主な事業は愛臨技精度管理調査の実施になります。

愛臨技精度管理調査は毎年9月頃に実施されています。対象調査項目は、臨床化学検査、免疫血清検査、血液検査、一般検査、生理検査、微生物検査、細胞検査、病理検査および輸血検査とすべての検査分野をカバーし、分野別の項目内容も全国サーベイ以上に充実しています。この愛臨技精度管理調査の実施における試料の準備から発送作業、結果の回収、結果の集計、施設別評価一覧表の作成、結果検討会の開催、総括集の作成、そして精度管理報告会の開催まで、精度管理調査に関連したすべての事業を精度管理事業部が担っています。1年に1回の精度管理調査のために、精度管理事業部員は丸1年間心血を注いで事業活動を行っています。

精度管理事業部の活動の中で特筆したいのが、結果検討会の実施についてです。この結果検討会は、サーベイ結果が「D、E評価」だった施設を対象に、問題点の洗い出しと解決策を探るための個別指導を目的として実施しています。開催時期は、施設別評価結果を郵送した後のなるべく早い時期の平日夜に開催するようにしています。技師会側のアドバイザーは、基幹施設の担当者を中心に各研究班班員と精度管理事業部部員が努め、対象施設の方と一緒にその施設の一員になりきったつもりで、問題点を洗い出し解決策を導き出しています。筆者も参加させていただいていますが、指導する方もされる方も本当に一生懸命であり、毎回この熱意には圧倒されています。また、この事業活動は他の都道府県技師会からも非常に注目されています。

以上、学術部門の役割と活動について簡単に紹介させていただきました。これからも学術部門は愛臨技会員のニーズに沿った活動を積極的に展開していきます。今後とも、ご理解、ご協力をお願いいたします。

.....
**愛臨技渉外部門
組織部部員・健康啓発委員会委員・
ホームページ運営委員会委員募集のお知らせ**
.....

(社)愛知県臨床衛生検査技師会
会 長 松本 祐之

愛臨技では平成25年度の渉外部門の組織部部員・健康啓発委員会委員およびホームページ運営委員会委員を公募いたします。平成25年度より愛臨技は公益社団法人となり、公益性のある技師会活動はますます重要となってきます。組織部部員・健康啓発委員会委員として組織強化や公益事業の企画、実施を活発に行っていただける方、ホームページ運営委員会委員としてホームページの管理・運営を行なっていた方の方を求めています。奮ってご応募ください。

募集人員：それぞれ若干名

申込方法：下記について記載し、メールにてご連絡ください。

メールアドレス aamt@aichi-amt.or.jp

申込締切：平成25年1月31日(必着)

記

1. 応募する部員または委員名
(組織部部員または健康啓発委員、ホームページ運営委員)
2. 氏 名 (性別・年齢)
3. 会員番号
4. 施 設 名
5. 施設住所 (郵便番号付き)
6. 施設電話番号
7. メールアドレス

問 合 せ：組織部員、健康啓発委員については

組織部長 所 嘉朗

愛知県がんセンター中央病院 臨床検査部

電話：052-762-6111 (PHS 6121)

Email：ytokoro*aichi-cc.jp

(*を@に変換し送信ください)

ホームページ運営委員については

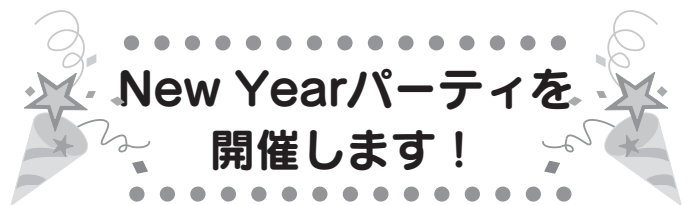
広報部長 堀 隆彦

名古屋市立西部医療センター 中央検査科

電話：(052) 991-8121

Email：t.hori.76*west-med.jp

(*を@に変換し送信ください)



恒例となりました「New Yearパーティ」を下記のとおり企画いたしました。普段接することのできない他施設や他部門の会員との情報交換、ベテランから新人への知識や技術の継承をこの機会に行いましょう。会員および賛助会員皆様の交流の場です。多数のご参加をお待ちしています。

なお、準備の都合がありますので、12月21日(金)までに別途用意した出席表によるFAX、あるいはメールにて愛臨技事務所までお申し込み下さい。

記

日 時：平成25年1月11日(金) 19:00～21:00
(受付は18:30より行います)

場 所：アサヒスーパードライ名古屋
名古屋市中村区名駅南1-17-23
ニッタビルB1

電話 052-566-2001

JR名古屋駅徒歩5分 下記地図参照

会 費：5,000円

当日、受付にて徴収させていただきます

申込期限：平成24年12月21日(金)

問合せ先：愛知県がんセンター中央病院 臨床検査部
所 嘉朗

電話：052 (762) 6111 PHS 6121

メールアドレス：ytokoro*aichi-cc.jp

(*は@に変えて送信ください)



知多地区研修会

専門教科：20点
日 時：平成25年2月14日(木) 19:00～20:00
場 所：半田市医師会健康管理センター
4F大会議室
テ ー マ：「災害と医療」
① 放射能災害と医療協力
半田市医師会健康管理センター
杉浦 千秋
② 甲状腺の超音波検査にボランティア
として参加
半田市立半田病院 宮地千恵子

中部大学生命健康科学部 祖父江沙矢加
ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社
佐々木一利

司 会：藤田保健衛生大学病院 北原 公明
定 員：先着20名程度
参 加 費：無料
昼食は各自でご用意ください。
申 込：参加希望される方は下記まで会員番号、
施設名、氏名をご連絡ください。
連 絡 先：藤田保健衛生大学病院 遺伝子検査
北原 公明
TEL 0562-93-2294
E-mail: tkitahar@fujita-hu.ac.jp
申込締切：平成25年1月31日

尾張北地区研修会

専門教科：20点
日 時：平成25年2月20日(水) 19:00～20:00
場 所：名古屋第二赤十字病院研修ホール
テ ー マ：『臓器提供時での臨床検査技師の役割』
講 師：日本臓器移植ネットワーク中日本支部
チーフコーディネーター 渡辺 勇
内 容：日本の臓器移植の現状と愛知県では何が
提供できるか、臓器提供実施することにより
提供病院臨床検査部門がどの段階で
何の役割を担うのかなどを講演していただ
きます。

研 究 会

一般検査研究班

専門教科：20点
日 時：平成25年1月12日(土) 15:30～17:30
場 所：スズケン名古屋支店 2階会議室
名古屋市東区東片端町1番地
地下鉄久屋大通駅下車徒歩7分
テ ー マ：Q & A
～素朴な疑問にお答えします～
講 師：
1) 目視法による尿定性検査の注意点について
～Aiccls尿定性検査のリーフレットより～
名古屋第二赤十字病院 安土みゆき
2) 卵円形脂肪体と大食細胞の見分け方
愛知医科大学病院 滝 賢一
3) 認定一般検査技師の試験内容について
社会保険中京病院 宮地 英雄
司 会：岡崎市医師会公衆衛生センター
畔柳 里美
厚生連足助病院 塩谷 里実
内 容：尿定性検査の注意点では、AICCLSより
新しく発行されたリーフレットをもとに
解説して頂きます。卵円形脂肪体と大食
細胞の見分け方では、尿沈渣検査法2010
での考え方を多くの写真を用いて詳しく
解説して頂きます。認定一般検査技師の
試験については、同認定を認定開始初
期に取得された講師の先生より試験の範

基礎講座

遺伝子染色体検査研究班

専門教科：20点
日 時：平成25年2月24日(日) 10:00～15:00
場 所：中部大学50号館生命医科学科用実習室
テ ー マ：リアルタイムPCRの基礎を学ぼう
内 容：リアルタイムPCRを使った実技
リアルタイムPCRに関する講義
遺伝子解析最新機器の紹介および見学
講 師：藤田保健衛生大学病院 中山 麻美
藤田保健衛生大学病院 北原 公明
藤田保健衛生大学病院 榎本 喜彦

囲、実際に出題された設問などについて詳しく解説して頂きます。ベテランの方から、初心者の方まで多数の参加をお待ちしております。

研究会

生理検査研究班

「愛臨技精度管理事業」

基礎教科：20点

日時：平成25年1月19日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学

医学研究科・医学部研究棟11階講義室B

テーマ：平成24年度愛臨技サーベイ解説

- 講師：1. 愛臨技精度管理調査報告
名古屋第二赤十字病院 石神 弘子
2. 心電図
名古屋大学病院 松原 宏紀
3. 脳波・神経生理
江南厚生病院 柴田 康孝
4. 肺機能
小牧市民病院 余語 保則
5. 心・血管エコー
津島市民病院 山梶 恵美
6. 腹部・表在エコー
藤田保健衛生大学 刑部 恵介
- 司会：社会保険中京病院 加藤 鮎美

研究会

輸血検査研究班

専門教科：20点

日時：平成25年1月26日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋市立大学病院

中央診療棟4階 第1会議室

テーマ：「安全な輸血を目指して」

～多職種からみた輸血～

- 講師：1. 看護師における輸血製剤実施の現状報告と今後の課題
安城更生病院 看護部
通院治療センター 杉浦 利美
2. 血液透析と輸血
藤田保健衛生大学病院
血液浄化センター 新 典雄
3. 輸血の安全確保への取り組み
岡崎市民病院 医療技術局臨床検査室
星野 鉦二
- 司会：豊田厚生病院 原田 康夫
- 内容：輸血の安全向上に向けて看護師、臨床工学士、臨床検査技師の立場から、それぞれの業務や取り組みをご紹介します。

地名読み方教室

その5

師崎

「南知多」

もろざき

知多半島の先端の師崎には国の天然記念物の羽豆神社の社叢があります。社叢にはウバメガシの大木がいたるところにみられ、原生林のようであったといえます。昭和34年の伊勢湾台風で大木のほとんどが倒れるなど大きな被害を受けましたが、ウバメガシを中心に回復し、イブキ、

岩滑

「半田市」

トベラ、ヤブニッケイ、モチキなどが共存する暖地性常緑樹林となっています。

やなべ

「ごんぎつね」の作者・新美 南吉のふるさとで、母校でもあり代用教員として勤めていたこともある岩滑小学校では「南吉学習」として、南吉作品を取り入れた学習活動をおこなっている。

案山子

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第15回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物のうち、「EVG染色」についてご紹介いたします。

これまで発刊された愛知県臨床検査標準化協議会推奨方法には、グロコット染色、PAS反応、および脱灰法の3つの推奨方法があり、EVG染色は4つ目の推奨方法となります。良好な標本を作製するための推奨染色法や試薬、染色のコツがまとめられていますので、是非ご活用ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床衛生検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

愛知県臨床検査標準化協議会推奨方法 (4) 弾性線維染色 (EVG)

Elastica Van Gieson (以下 EVG) 染色は弾性線維を黒紫色、膠原線維を赤色、筋線維を黄色に染め分けることができ、特殊染色の中でよく用いられる染色法である。EVG 染色により心血管系病変のほか、傷害組織の修復過程の線維化の程度や、腫瘍の脈管侵襲の有無などをより明瞭に知ることが可能である。

推奨染色法

- | | | |
|----------------------|---------------|-----|
| 1. 脱パラフィン・水洗 | | |
| 2. 70%エタノール | ・・・ 1分 | 注1) |
| 3. レゾルシン・フクシン液 | ・・・ 60 ~ 120分 | 注2) |
| 4. 100%エタノール (分別) | | 注3) |
| 5. 水洗 | ・・・ 5分 | |
| 6. 鉄ヘマトキシリン液 | ・・・ 5分 | 注4) |
| 7. 水洗 | | |
| 8. 1%塩酸70%エタノール (分別) | | 注5) |
| 9. 流水水洗・色だし | ・・・ 10分 | |
| 10. ワンギーソン液 | ・・・ 2 ~ 5分 | 注6) |
| 11. 70%エタノール (分別) | | 注7) |
| 12. 脱水・透徹・封入 | | 注8) |

染色液および試薬の調製

I. レゾルシン・フクシン液

- ・レゾルシン・フクシン粉末 ・・・ 0.2 g
- ・2%塩酸エタノール ・・・ 20 ml
- ・1%塩酸70%エタノール ・・・ 80 ml

※ レゾルシン・フクシン粉末に2%塩酸エタノールを加えて溶かし、1%塩酸70%エタノールを加えて全量が100mlとなるよう作製する。

II. 鉄ヘマトキシリン液 (用時調整)

- ・A液：ヘマトキシリン ・・・ 1 g
- 純エタノール ・・・ 100 ml
- ・B液：29%塩化第二鉄液 ・・・ 4 ml
- 濃塩酸 (36%) ・・・ 1 ml
- 蒸留水 ・・・ 95 ml

※ 使用のおよそ30分前にA液とB液を等量混合し使用する。

III. ワンギーソン液

- ・飽和ピクリン酸水溶液 (約1.2%)
- ・1%酸性フクシン水溶液

※ 使用時に飽和ピクリン酸：酸性フクシン水溶液=10g : 1.5gに混合し使用する。

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

EVG染色